

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800035		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	グループホーム あったかいごひといち		
所在地	岩手県遠野市中央通り5-25		
自己評価作成日	平成26年10月3日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0390800035-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成26年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街に位置し、行祭事は施設前の出県道で行われることが多いため、その都度観覧しております。地元の商店街の進行協同組合や自治会に加入し積極的に交流を行い、地域に根ざした施設となるよう努めております。また、職員の資質向上のため遠野市内のGHと合同で研修を行ったり、月に1回内部研修を行なう等人材育成に力を入れることで、利用者様がより安全で楽しく健康的に生活できるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古くからの商店街に位置し、5区町内会・商工街組合・商工会の会員として七夕やお祭りの行事に参加している。また、近隣の商店の方々より、災害時の緊急協力隊として協力をいただいている。運営理念として「共に和み、共に生きる」とあり、利用者同士の思い遣りのある声掛けや、職員ヒヤリングの際に職員から自己評価項目の中の「職員は、生き活きと働いている。」では、私は二重丸です。」との言葉も聞かれ、利用者・職員共に理念の浸透と実践を強く感じる事ができた。グループホーム内で取り組まれている、ありがとうカードは、職員間で1ヶ月の中で心に残ったありがとうをカードで伝える事で、職員間の円滑な関係や信頼感・職員自身の仕事に対する自信に繋がっていく取り組みになっている。利用者はホールのソファでゆったりと穏やかに過ごされている姿が印象的だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「共に和み、共に生きる」心構え「笑顔は最高のケア最高のサービス」とし、内容を見やすいところに掲示、実践している。	運営理念の実践として、利用者・職員共に和やかに過ごされている。また、法人としてアメーバ経営に取り組み、(利用者も喜び、職員の生活も豊かに、地域にも還元できるように)を目標としている。毎月成果を評価し、見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設は自治会、商店街及び商工会の会員として、地域のお祭りや行事に積極的に参加する中で地区民と交流を深め、良い環境が出来ている。	五区町内会・商店街組合・商工会の役員として、七夕飾りの制作や、当日の屋台に協力している。利用者は、自分たちの作った七夕飾りを見たり、職員が屋台に協力する姿を見る事で、見学するだけではなく参加できている満足感があると考えられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、職業訓練生や地元中学生の実習受け入れを積極的に行い、その際認知症の理解や支援方法を細かく指導するよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や現在取り組んでいる内容について報告し、家族や地域住民、民生委員、行政の方々より意見を拝聴、実施可能なものは採用している。	参加者からは、多岐にわたり意見や提言・要望が話されている。認知症家族の会や婦人会などの参加により、より地域に密着した意見が聞かれる体制となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の疑問等について機会を捉えて相談・協議を重ねている。また定期的に広報誌の送付をし連携を密にしている。	広報誌を3か月に1回送付している。また、職員体制や同法人内のデイサービスの利用等について相談をし、助言を受けている。来年1月に似内地区で設立予定の認知症カフェの相談や、認知症家族の会の集いに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務日誌に身体拘束の有無欄を設け記録している他、研修を通して常に拘束しないことを意識して行動している。安全面を考慮するためホール入り口にセンサーを取り付け拘束しないケアをしている。	業務日誌に身体拘束の有無欄を設け記録しているが、身体拘束は行っていない。利用者をお客様と位置付け、接遇研修により、言葉による拘束にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を管理者は日常的に身体拘束や虐待防止法を念頭にケアをし、研修を通し理解を深めている。また業務日誌に虐待防止に関する項目を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の必要なケースについては、管理者、および計画作成担当者が主に対応している。職員は研修会への参加や資料の観覧などを行い理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間をとり重要事項説明書・契約書を示しながら説明を行い理解を深めている。退去の際も、本人・家族・ケアマネとよく話し合い、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置。また意見箱を設置し投書できるようにしている。サービス担当者会議や面会時などを利用し、意見等を聞くようにしている。	年に1度、アンケートにより利用者・家族の意向の確認を行っている。また、利用者より意見のあった時には、速やかに対応を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度職員会議を開催し、職員会議で出た意見や提案は法人内の運営会議や施設内での全体会議で報告、相談協議しよりよい施設作りに努めている。	職員より、ホーム内の整理や飾り付け・業務の内容等、利用者の生活の改善に向けた提案があり、その都度検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力や勤務状況を把握し、上司に報告している。また話し合い等でシフト作りを行い日々の就業環境を整えている。定期的に健康診断を行い健康保持増進にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数・勤務経験や職種を考慮し研修会に参加、資質の向上に努めている。また、毎月1回の内部研修・3ヶ月に1回程度市内6箇所のGHと協力し研修交流会を開催、職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の会員として積極的に参加し、交流を深めている。また市内同業者と一緒に市等主催の行事の観覧など交流・情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず利用者と面談し、不安や困っていること・希望などを拝聴し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで歩んできた状況や困っていること、心配していることなど話し合う機会を設け、事業所としてどのような対応が出来るか自然に話し合いや施設見学をしてもらい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、利用者に適した支援を見極めて対応している。また必要に応じて地域包括支援センターや他事業所に相談、助言等をもとに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯干しなど出来ることはいつでも出来るように、出来ないことには少し手を貸し共に支えあう環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時や電話時に利用者様の様子などの情報を共有し、共に支えあえるような関係作りに努めている。また、月に1回閲覧板を作成し近況や状態等の情報を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くにドライブに行ったり、なじみの方が訪問された際にはゆっくり会話などが出来る雰囲気作り努めている。	馴染みの美容院に通っている利用者や、グループホームあったかいごひといち瓦版により、近況やご本人の希望を伝え、ご家族の対応により墓参りなどにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係の動向に注視し、職員が間に入り会話しやすい環境を作るよう目配り、気配りを行い、より良い人間関係が保たれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談できるように家族にも契約時説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や回想法の中で話しやすい環境をつくり、やってみたいこと、食べたいもの及び行って見たいところなどを引き出すようにし、また実施に努めている。	利用者の生活歴や職歴等から、ご本人の意向や思いを引き出すよう働きかけている。また、ドライブ等で自宅付近の景色を見る事で、昔の思い出や心の奥の真実の思いが聞かれる。言葉に表せない利用者の意向は、表情から読み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や職歴を聞き取り、入居後も利用者の話や家族・知人の訪問時に情報を得るなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、全体像を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日々の生活する中で、思いや意見を聞くと共に、月1回は計画作成担当者は各居室担当者と話し合いやモニタリングを通して意見を取り入れて介護計画に反映している。	利用者一人を職員一人が担当している。月に一回プランに添って見直しを行っている。心身機能の状況について話し合い、プランに反映させ対応したところ、歩行状態が改善した例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の用紙に、日々の暮らしの様子や本人の言葉を記入している。また業務に入る前に記録の確認や情報の共有に務め、介護計画の策定に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種行事・家族旅行等に積極的に意見・参加をしていただき、利用者のニーズにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人クラブで構成する運営推進会議を利用して、意見交換をしている。また近所の方や婦人会に歌や踊り・マジックの披露などのボランティアとの触れ合う機会を設けている。また、地域内の祭事等に出向くなど機会の創出に勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を受診している。また、情報の提供や受診同行等の支援を行っている。	希望するかかりつけ医を受診している。家族の対応で受診する際はバイタルチェックや日頃の様子を伝えている。ご家族からの要望があれば、職員が付き添い受診できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が不在の為看護職との協同は行っていないが、定期受診の際バイタルや日常の様子を医師に報告し体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が相互に見舞い時や体調の確認に勤めている。また家族や担当看護師等と情報交換を行い、回復状況を確認しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、随時家族や医師・医療関係者と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごせるように努めている。	入居時、利用者・家族に対し、医療行為を伴う場合は、原則的に看取り対応が困難である旨を説明している。しかし、特に医療行為の必要がない場合は利用者や家族の意向を踏まえ、終末期の支援を検討していきたいと考えている。	医療連携の構築や、職員の終末期ケアの研修を重ねる事で、利用者はもとより職員も安心して終末期ケアに取り組めるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急究明法の研修を実施し、全職員が対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回避難訓練や消火訓練を行い、有事に備え設置している緊急連絡網により地域の緊急協力員にも参加をしていただいている。	近隣の方5名の緊急協力隊の参加により、消防署の協力を得て年2回の避難訓練が行われている。	暗い時間の避難訓練により、利用者の避難時の心身に与える影響や、避難路の照明の確認等により実践的な避難訓練が行われるよう期待する。また、緊急協力隊と職員の連携により、利用者が速やかに避難できるよう役割の確認等により、更に安心できる体制となるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴、夜間等のプライバシーには十分気を配り、尊厳をもって接している。また記録等の個人情報には他に漏れないよう鍵付きの書庫に保管している。	利用者をお客様ととらえ、接遇研修を行っている。職員は、利用者から教わる事も多いと話しており、人生の先輩として尊敬の念を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行い、複数の選択肢の提案や希望を取り入れ、話しやすい環境を整え本人が決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のタイムスケジュールを基本に介護業務を推進し、利用者が望んでいることの期待にこたえるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望を取り入れ着替えの際には希望に沿って洋服を選ぶなど支援している。また、認知症により訴えが困難な利用者にはアセスメントから本人の好みそうな服を選ぶよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りや後片付け・食器洗いなど利用者の能力に合わせて職員と一緒に楽しい食事が創出されるよう取り組んでいる。利用者の希望を尊重し柔軟に対応している。	利用者各自の箸・茶碗・湯呑を使用している。職員と一緒に茶碗洗いや片付けを手伝っている姿がみられる。利用者は思いやりがあり、他の利用者の口の周りを拭いてあげたり、やさしく見守りが行われている様子が印象的である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分を毎日チェック表に記入。利用者の体重の増減についても意を払い食事量やおやつに気を配るなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを行い、職員が見守り・介助し清潔保持に努めている。また食事の様子などを考慮し歯科受診を進めるなどし口腔環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の時間や習慣の把握と体調観察、状態を見て声かけによるトイレ誘導で自立に向けた支援を行っている。	比較的自立している利用者が多く、職員はいつトイレに行ったかを把握している。まれに失敗のあった時には、利用者の気持ちに配慮し、さり気ない誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には牛乳やヤクルトを提供。日中軽運動を取り入れるが、便通が見られない方にはかかりつけ医と相談し便秘の対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1度は入浴できるよう配慮はしているが希望者には適宜配慮している。また、入浴拒否の方には無理せずタイミングを見て入浴の声かけやシャワー浴等を行うなど清潔保持に努めている。	利用者の同性介助の希望は3名あり、職員の配慮がある。また、1階のデイサービスにある機械浴の利用ができる体制となっており、重度化しても安心して入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。また、利用者の状態や体調、希望に合った室内環境を整え、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の内服状況や作用等受診ノートに添付し、職員が内容を把握できるようにしている。また、薬の処方や要領に変化があった際には受診ノートに情報を提供し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯もの干し、カーテンの開閉など得意分野で個々の力を発揮できるよう、利用者にあった生活支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の状態や希望、天候に合わせてドライブなどを行っている。また季節を肌で感じられるお花見や効用ドライブ等計画実施し、月に1回は外出する機会を設けている。食材の買い物の際一緒に買い物に出かける機会も設けている。	毎日散歩している利用者や、家族と一緒に通院の帰りに食事や買い物をする利用者もいる。月1回は皆でドライブに出かけている。また、本の好きな利用者は図書館に本を借りに出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は全て立替にて好きなものを購入でき、その楽しさの創出に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた際には利用者の以降を代筆したお手紙を書いたり、要望があれば電話をかけたリ絆を深めるよう支援を行っている。また、ご家族にあて年賀状を書くことをレクリエーションの一環としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や月ごとのスナップ写真を飾ったり、毎月カレンダーを作成するなど季節の移ろいを感じていただけるよう努めている。	いわてけい	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にイスやソファを置き、利用者同士が会話をしたりテレビを見たりできるよう雰囲気の醸成に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室を確保するため、利用者の相談に応じ、なじみの家具や写真などを飾り、居心地よく過ごせる環境づくりに努めている	テレビ・鏡台・カセットラジオ・筆筒等の持ち込みにより、利用者個々の好みの居室となっている事で、利用は居室で本を読んだり、音楽を聴いてゆったりと過ごす時間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にわかりやすいよう居室やトイレの表札は、目から高さに合わせて設置し視覚からもうにパーサルデザインを基本に設備している。		